



海軍将校の娘と生まれて

山崎 朋子

「大日本帝国憲法」が効力を失い「日本国憲法」が現れたとき、わたしは女学校の二年生だったが、体がふるえるほど嬉しかった。第九條に、「戦争放棄」と「軍隊を持たぬこと」が定められていたからだ。

わたしの父は日本海軍の軍人で、それも潜水艦の艦長だった。しかし、太平洋戦争のはじまる前年、模擬戦の最中に、艦とともに行方不明となってしまったのである。

同盟を結んだドイツへ、秘密の使者として行ったのだとの説もあったが、不慮の事故で沈没したらしい— とのうわさの方が強かった。そして、近所の人たちのなかには、「朋子さんのお父さんは、天皇陛下のものである潜水艦と数十名の兵士を失くした不忠者よね」と言う人も現れたのだ。

一年近い後、海軍省は潜水艦を事故による沈没と認め、盛大な海軍葬をおこなったが、しかし、それは、本当に殉職者を悼み遺家族を思いやってくることではなかったと思う。事故による沈没という軍事的な不名誉を、やがてはじまるアメリカ・イギリスとの戦争に向けての〈名誉ある殉職〉に転化させるための、いわば悲壮葬典だったのである。

沈んだ艦と乗組員は「潜水艦一号」という題で映画化され、それは映画館ばかりでなく全国の小



中学校でも上映された。陛下の艦を失った〈国賊〉の娘だったわたしは、一転して〈英雄の娘〉。そして数年経って敗戦を迎えると、今度は、〈軍人＝戦争犯罪者の娘〉というふうになる。

わたしの父が職業軍人になったのは、貧農の家の三男として生まれ、国家が学費を出してくれる師範学校か陸海軍学校へ行くしか道がなかったからだ。おかげで娘のわたしは複雑な体験をしたわけだが、それ故に、どのような関係によるものであれ、決して、〈戦争遺族〉を出してはならないと思う。

いまの日本には、〈国家のプライド〉として軍隊を持つべきとし、すでに有る〈自衛隊〉を〈正式に軍隊〉とすべきだとする意見の人もあるようだ。しかし、わたしは、〈国家のプライド〉よりは〈人間の生命〉のほうが大切だと信じている。

「日本国憲法」の第九條の条文の、何と美しいこと！

(やまざき・ともこ 女性史研究家、ノンフィクション作家)

メディアが「坂の上の雲」で狙っているもの



九条の会東京連絡会は、3月23日夜、千代田区内の会場で、東京・9条まつり第4回実行委員会を開催しましたが、冒頭仲楽間卓蔵氏（元日本テレビ・プロデューサー）を講師とした“『坂の上の雲』とメディア”と題したミニ学習会をおこないました。

その講演の大意は下記の通りでした。

九条の会・東京連絡会は、このところ、催し物の実行委員会のたびに時宜に応じて短時間の講演をやることにしている。会議だけでなく、一つの情報であったり情勢認識であったりの講演は、参加者にとって「ちょっぴり得した気分」になる。遠路はるばる電車賃をかけてきた人たちには尚更であろう。

3月23日の「東京・九条祭り」（11月13日、大田区産業プラザでの）実行委員会での「講演」は、ぼくにお鉢が回ってきた。かねてからNHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』についての危惧を話してきた結果だと思う。

司馬遼太郎についての評価はいろいろある。その議論となると果てしなくなるに違い

司馬は生前、この作品の映像化を「ミリタリズムの鼓吹になると思われるかも」と言い、映像化を拒否

がない。ぼくの危惧は、「いまなぜ『坂の上の雲』なのか」の一点である。司馬は生前、この作品の映像化を「ミリタリズムの鼓吹になると思われるかも」と言い、映像化を拒否していた。それを2001年にNHKが獲得した。2001年といえば、NHKが“従軍慰安婦問題”を扱った『ETV 2001』が右翼の攻撃に晒された年である。小森陽一さんは、「『坂の上の雲』は、改憲派におもねった企画」と評した。

番組の企画意図には、「・・・そこには、今の日本と同じように新たな価値観の創造に苦悩、奮闘した明治という時代の精神が生き生きと描かれています。この作品にこめられたメッセージは、日本がこれから向かうべき道を考える上で大きなヒントを与えてくれるに違いありません」とある。「若者たちよ、あの明治を見よ！」というのである。冗談じゃない。

『坂の上の雲』についての疑念はいくつもある。福沢諭吉のことが第一部の冒頭に出ているが、長くなるのでここでは省略しよう。問題は、司馬が避けて通った「朝鮮侵略の歴史」である。明治政府は、朝鮮支配を「百年の大計」としてあらゆる手段を講じた。1894年～5年、東学党農民蜂起で3万人（女性、子供まで）虐殺。王妃暗殺。王宮占領・・・。司馬が書かなかった三大事件である。19

10年、韓国併合となる。

ドラマは、昨年末が第1部、今年末第二部、来年末第3部。日露戦争、日本海海戦で終わる。なぜ3年がかりなのか。鳩山は、「東アジア共同体」という。今年は韓国併合100年である。歴史認識があらためて問い直されるとき、このドラマの問題点は指摘されなければならないと思う。「たいした影響はないよ」という向きがあるかもしれないが、そうだろうか。気になることは発信し続けたいと思う。東京連絡会のみなさんに、さらに関心をもってもらえたら幸いである。

「東京・9条まつり」第5回実行委員会のご案内

「東京・9条まつり」の運営体制、計画の内容、よびかけ等準備を引き続き具体化させなければなりません。また、改憲手続法が、いよいよ施行の時期（5月18日）を迎えています。こうした情勢の下で下記の通り実行委員会を開催します。

日 時 4月26日（月）

午後6時30分～

会 場 豊島区民センター

第3、4会議室

第Ⅰ部 学習会「改憲手続法にどう立ち向かうか」

講 師 山口真美弁護士

第Ⅱ部 みんなで作りあげよう！東京・9条まつり

なお、当日は会場費の関係で若干のカンパをお願いします。

九条の会東京連絡会事務局

地域から



大田九条の会5周年記念講演会に中村哲医師(ペシャワール会)を招く



桂 敬一さんの講演会

2005年10月6日にジェームス三木、吉武輝子、小森陽一氏を迎えての結成総会から、今年で丸5年目に大田の会もなります。この間、国民投票法や自衛隊の海外派兵など情勢に見合った講演会(講師は水島朝穂氏、桂敬一氏、伊藤千尋氏、海部弁護士、笹山弁護士)や映画(日本の戦争、蟻の兵隊、日本の青空)上映を取り組み、2回の「職場・地域9条の会交流集会」を企画してきました。

特に駅頭宣伝(蒲田駅)は、毎月1回ですが結成以来欠かさず実施(毎回20~30名)、署名と対話に重点をおいてきました。最近はや若い中高生の署名も増え、逆に若い参加者から年配者の反応が良くないとの声も出ています。

運営は、月1回の事務局を兼ねる世話人会(現在26名)です。大切にしている事は、「9条を守る」の一点で取り組むということで、この線をきちんとし、このことが思想

信条の違いや党派を超えた幅広い人びとを結集する上でカギになってきました。会の代表も事務局も置かず、すべて世話人会で決めたことは、みんなで分担し運営することを5年間行ってきました。

昨年は5月を「憲法月間」として、リーフレットでさまざまな5月中の憲法を生かす催しを紹介(20企画)。費用は広告料でまかない、各催しの参加者も増え、朝日新聞にも報道されて好評でした。

財政は、会費なしなので、2年に1回カンパを訴え、映画上映の黒字で支障なく運営しています。(会員制でなく、賛同者約300名)

大田九条の会として、「好きです憲法9条」「世界にはばたけ憲法9条」のノボリ旗を作成、シールも5000枚印刷、カンバッジ1500個作成、シンボルマークも漫画家の協力で決めたり、ニュースも年4回で現在21号発行となっています。

また、全国の九条の会や東京連絡会の催しへの参加、08年の「九条世界会議」の際には大田区内のピースウォークへの協力など取り組んできました。

ことしの5周年記念には、アフガン現地で医療活動とともに24キロの水路を完成させ荒地を農地に変え、現地の人びとに喜ばれているペシャワール会の中村医師の講演会を計画しました。6月15日夜ですが、会場は1500名入りますので、ぜひ多くの方々の参加をお待ちしています。

(大田九条の会:美原 清 記)

「新聞記者が語る マスコミと憲法9条」学習会に、58名参加

九条の会かなまち

2月27日(土)、地元の金町地区センターで開催した9条学習会は、私たちの予想をはるかに超える58名が集まり、熱気あふれる有意義な学習会となりました。

講師は、毎日新聞記者の明珍美紀さん。新聞労連初の女性委員長もされ(現在は交代)、マスコミ9条の会などでも「憲法9条を守ろう」と活躍中。

イラク戦争従軍の朝鮮日報記者が、女性兵士の中に黒人、しかもシングルマザーなどの弱い立場の人が多くいることに「気づいた」こと。「沖縄と戦争」-米兵との間に生まれ父親を知らない子どもを記事に取り上げ、戦争は今も続いていると訴えた経験。警察と新聞の関係...など、自分の経験を元に具体的に、問いかけるように講演。その後の質疑応答では、次々に手が挙がり、一つ一つに誠実に答える姿勢が好評でした。

民主党と憲法9条の関係では、新聞社内には「とにかく鳩山政権を支える」という人もいる、「9条は停滞か凍結だろう」という人もいるが、9条改憲を強く求める勢力も党内にいたので安心はできない、と報告されました。

私たちの会は、9条学習会を毎年連続で取り組み、5月の河添誠・首都圏青年ユニオン書記長に41名、9月の小澤隆一慈恵医大教授に33名で、今回は58名に。「学習会のお誘いも、9条を守る宣伝」と位置づけ、今回も案内チラシを1万枚、案内ハガキを250通、新聞折込、友人へのお誘いなど、準備が大変です。日頃の地道な活動が今回の結果に繋がったと、みんな確信を深めています。

(事務局:米山傑 記)



生きいき憲法

98歳からのメッセージ

DVD発売・大好評

九条の会東京連絡会発足の賛同人のお一人でもあり、ニュースの題名「生きいき憲法」の名付け親でもある日野原重明さんが、昨年10月24日の1周年のつどいで講演された内容を完全収録したDVDをこのたび完成・普及しております。

内容は、若い人から高齢の方、働いている方からさまざまなお仕事をされておられる方々の心を揺り動かすものになっております。

ぜひ、周りの方と一緒にご覧になって、感動を語り合ってください。また、1枚でも多く普及してください。

申し込み方などは下記の通りです。

◆価格：1枚1000円

10枚以上まとめてご購入の方には1枚無料で進呈します

◆申込先=〒101-0061東京都千代田区三崎町3-3-3太陽ビル503

九条の会東京連絡会

◆代金・送料は郵便振込口座をご利用ください。郵便振込口座=00180-6-762960

九条の会東京連絡会

電話03-3239-6716

FAX03-3239-6717

相川早苗

「九条の会東京連絡会一周年のつどい」で講演して下さった日野原重明さんのDVD「生きいき憲法～98歳からのメッセージ～」ができました。日野原さんは九条の会東京連絡会発足のときも真っ先に賛同人になってくださり、またこの通信の題名を考えていただき、揮毫までしてくださいました。

講演では東京大空襲戦災資料センター・オバマ大統領・カント・シュバイツァー・プラトン・新大久保駅で転落した人を救おうと命を落とした韓国人留学生・閻魔様など幅広い内容を分かりやすく、ユーモアを交えながらお話くださっています。

一貫して流れているのは「いのち・時間・平和」で、自分の時間を人のために捧げることはいのちを捧げることで、これが愛へとつながり、平和へとつながっていく。人の役に立つ生き方は自分も満たされた人生が送れるようになると教えてくださいます。また日野原さんが会長をされている「新老人の会」と「九条の会」が一緒になって日本を改革していきましょうと、九条の会への日野原さんの大きな期待が随所に感じられます。

発足一周年の九条の会東京連絡会はアクセルをグンと踏

み込んで「きゅうじょうしょう（急上昇）」して欲しいと、熱く楽しいメッセージをいただきました。

1枚1000円（10枚で1枚おまけ）です。

多くの方にご覧になっていたいただきたいDVDです。お知り合いの方々にも是非宣伝してください。皆様よろしくお願い致します。

日野原さんの裏話

お元気の秘訣に毎日のスクワットと体操と、エスカレーターでなく階段を使うようにしていること、生活に必要なエネルギーのぎりぎりの食生活など、健康で長生きするために摂生した生活をされています。

案外こちらの方が実行するのに難しい人が多いかもしれないですね…

高岡久子

貴重な講演のお誘いありがとうございました。帰りには、思いがけず握手までしていただけて、な～んか寿命が延びた気持ちです。

それにしても、凄いパワーですね。1時間ずっと立ちっぱなし、しかも声の張りは、なみではありませんね。

『大切なものは目には見えない』命も時間も目には見えないが、今この時間は自分のもの、命という自分のこの時間、どんな使い方をするかは

一人一人の判断で決めなくてはいけない、と言われましたね。

まずは自分が考える、勇気を持って行動する、そして次に続く人にバトンタッチしてゆくことだと。

国民投票法案を阻止するためにノーといえる人を一人でも増やす、日本の国からアメリカの基地は出て行ってもらい、武器を持たなければ戦争はおきない、争い多い今、世界を愛し合う社会へと導く唯一の道は受けた恩を何倍もにして返すこと、自分に返すのではなく関係のない他人に返すことだと言われていました。

一言一言が心に響きました。私も閻魔裁判で、秤がマイナス方向に大きく傾かないように、日々、愛を持って暮らしてゆこうと思っています。ありがとうございました。

山形県鶴岡市 水尾京子さん

先日開かれた「東北ブロック九条の会交流会」に参加し、休眠中だった活動を再開させています。

地域の開業医さんを訪問して日野原ドクターの平和への想いも伝えます。

そして、この方からDVD30枚のご注文をいただきました。

イメージふくらむ 東京・9条まつり 実行委員会開催毎に



学習講演会として仲築間卓蔵さんに「NHK『坂の上の雲』と11.13」（仮題）のお話をしてもらうこととなります。

「東京・9条まつり」 第4回実行委員会

「東京9条まつり」 第3回実行委員会

去る2月21日(日)10:00~12:00、第3回実行委員会が開かれました。今回は「東京9条まつり」のイメージをありありと思い浮かべてアイデアを広げようという狙いで、会場となる大田区産業プラザで開きました(参加者28人)。

会議では、正式名称をどうするか、企画の「募集要項」をどうするか、企画のイメージ、当日の体制などについて話し合いました。討論の内容は概ね以下の通りです。

*企画名称について。名称を正式に「東京9条まつり」で確定しました。

*「自主企画の募集要綱」について。九条世界会議などに護憲団体を装って宗教カルトなどが潜り込んでいたので要注意だとの発言があり、そのためにも参加条件に「非暴力条項」を明記した方がよいとの話になりました。また企画申請の締切りは5/30のみとしました。

*メイン企画について。多数の人が集まる(人寄せパンダ的な)企画も大事だという意見、参加者全体が集まる(全体的な)企画があった方がよいとの意見が出ました。

*自主企画について。時間枠内でスムーズな交代ができるための工夫の必要性、出演者も参加協力券を自費で買うとなると負担が大きいため、出演する側のメリットを考えてほしい、自主企画のアンケートなど総括用

のデータ集めの体制が必要、実行委員会(運営責任者)でいくつか企画しないと素人ばかりの企画になる危険性がある、などの意見が寄せられました。

*当日の体制について。スタッフ室を準備すること、各階ごとに責任者を配置すること、看護師を配置すること、JR駅からの道案内人を配置すること、右翼対策の警備を配置すること、駐車場を確保しておくことなどが指摘されました。

*飲食について。周辺に食堂がないから飲食物の販売は必ずもうかるが、保健所と消防署への届け出が必要なので、事前によく相談した方がよいということ。またゴミの持ち帰りの徹底が大切との意見が出されました。

*地元・大田区の九条の会には、機材を必要とする自主企画(ブース出店など)、地元での宣伝、参加者集め、受付などの要員など、多くのお願いをすることになるので、事前によく相談しておくことが大切との指摘がされました。

*その他。財政規模は収入目標500万円では厳しいのではないかと、どんどん気運が高まっているから、まだ参加していない会をこの実行委員会に来てもらうことでもっともっと大きくなる、協力してもらえそうな団体への呼びかけを早急に行おう、企画チラシを早くつくって配布すべき、意見が出されました。

第4回実行委員会は3月23日(火)18:30から、エデュカス東京・地下会議室にて開催、

3月23日午後6時30分より、エデュカス東京の会議室で第4回実行委員会が開かれました(参加者33名)。

第1部は、仲築間卓蔵さん(マスコミ9条の会)から「『坂の上の雲』とメディア」と題して、2009年から2011年まで毎年12月にNHKが放映する日本近代史を歪曲したドラマの今日的意図についてのミニ講演でした(詳細は別稿)。

第2部は、小森陽一さん(九条の会事務局長)から、4月4日の九条の会関東ブロック交流集会の訴えがありました。九条の会運動がこの間の憲法世論を大きく変えてきたこと、改憲の危機を感じた人々の顔の見える運動に1人ひとりが参加してきたこと、しかし90年代政治改革(国会改革、選挙制度改革)をリードした勢力が今の政治の主役になっていること、したがって改憲の危機は依然として強いこと、このせめぎあいの中、読売新聞が毎年4月に憲法の世論調査を発表するので4月4日交流集会は絶対成功させなければならないが、現状は成功はおぼつかないこと(500名予定のところ350名程度の参加申込でしかない)、以上を熱く訴えられました。読売調査、続いて改憲手続法の5月18日施行が近づく中での交流集会であり、これを成功させるには東京各地の多くの9条の会の参加が求められていることを確認した次第です。因みに東京連絡会に与えられた参加目標は150名ですが、当日時点で92名でした。

第3部は、小林義明さん（マスコミ9条の会）より「9条まつり」へ向けた実務的な提案がなされました。実行委員会の運営体制（実行委員長、副実行委員長、事務局、企画制作部、宣伝部、運営部）の確立、11月13日までのロードマップの策定、予算の策定ですが、4月4日の関東ブロック交流集会後にこれ

らを詰めることを確認しました。また、各地の9条の会が積極的に「自主企画」を持ちこんで欲しいとの要請もなされ、次回実行委員会ですれらを持ち寄ることも確認しました。イメージビラ、自主企画の要綱&申請書などを次回の実行委員会に提出していきたいと思ひます。なお、当日は豊島区民センター

に向かわれた方々がおられました。場所変更の連絡に不備があり、大変ご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。



九条の会東京連絡会は賛同金で運営しています 賛同申し込みと年額賛同金入金へのご協力を心よりお願いいたします

東京の「九条の会」運動に参加されているみなさん
都内各地・各分野での憲法九条を守り生かす日頃の多彩な活動に敬意を表します。
昨年、国民の新しい政治を求める世論の力は「政権交代」を生み出しましたが、それから半年、新政権は混迷の模様です。こうしたもとで、今年5月18日には、「憲法改正国民投票法」が施行されます。

このような中で、いま「九条の会」の取り組みをさらに大きく広げていくことがとても大切になっています。東京連絡会は、昨年10月に発足1周年の「二つのつどい」を開催し成功させました。今年は、大事な節目の年に、全都の800余の「九条の会」がそれぞれもう一回りの広がりをつくるように取り組み、さらに東京の隅々に網の目のように「九条の会」をつくらしていきたいものです。そして、東京連絡会発足2周年の秋に、東京中の「九条の会」が集まって「東京九条まつり」を大成功させましょう。

いま、「九条の会」の運動が広がると同時に東京連絡会への期待は大きく、それに応える体制とそれを支える財政の確立が急務になっています。連絡会の財政は、趣旨に賛同する個人・各九条の会等の賛同金とつどいなどの際のカンパによって支えていただき、支出は事務所費、会報発行・送付、会議費等となっています。会報の購読料は賛同金に含まれています。

しかし、活動普及のために会報や宣伝物の注文も多く、毎月の経常経費を支払うと赤字の状態となっており、その分は個人的な負担となっています。

そこでこの事態を打開するために、二つのお願いをいたします。

(1) 年額賛同金の入金をお願いします。賛同金は年額です。すでに2年目の賛同金のお願いと入金いただき行き違いの場合は、ご容赦ください。

(2) 賛同人を是非大きく広げてください。賛同書をご活用ください。

今後とも東京の九条を守り、生かしていく運動をさらに大きく広げていくためにともに力をあわせましょう。ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

2010年4月

九条の会東京連絡会
事務局代表 都丸哲也
千代田区三崎町3-3-3
太陽ビル503
t e l : 03-3239-6716
f a x : 03-3239-6717
郵便振替口座
00180-6-762960
九条の会東京連絡会



九条の会関東ブロック交流集会

初めて開催＝東京で、約450人が参加



4月4日の日曜日、東京の櫻は満開。この日、九条の会関東ブロック交流集会が港区芝公園にある正則高校で開かれました。

九条の会は全国交流集会を一年前まで3回開いてきましたが、昨年6月のよびかけ人会で「今年是全国1ヶ所で行う『全国交流集会』とせず、かねてから要望が出ているブロック別の交流として、活動の濃密な交流をめざす。具体的には『九条の会』と都府県の『会』が協議しながら、合意できたところから順次開催する」ということが確認されました。これにもとづいて、九条の会事務局からのよびかけで、関東ブロック各都県の『会』と分野別の『会』が昨年11月21日に相談会をもち、その後3回にわたる運営委員会を経て開催に至ったものです。

東京から150人が参加

茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、東京の1都6県と山梨も加えての交流集会で、東京からの約150人を含む1都7県から約450人が参加しました。

全体会は体育館で、開会に先

立って松平晃さん（神奈川九条の会）のトランプ演奏が参加者の気持ちを大きく盛り上げる中、10時ちょうどに東京連絡会事務局の高岡岑

郷さんの開会挨拶で始まりました。

「分散会も40人以内で、経験や問題意識の交流も濃密にできることと思います。新たな情勢のもとで、九条の会の運動がいつそうひろげられていくきっかけの集会にしていきたいものです」とよびかけました。続いて、

会場の正則高校校長が 歓迎挨拶

会場である正則高校校長の日沼慎吉さんが「私も正則高校九条の会の会員、初めての関東ブロック交流集会の会場に本校を使っていただいて光栄です」と歓迎あいさつを述べられ、全体会の最後まで参加されました。

司会を東京連絡会事務局の相川早苗さんが担当し、各地・各界からの報告に入りました。

「情報や活動の交流を目的」に県段階の会を発足し年1回のイベントでは毎回数千人の参加で活動を展開している九条かながわの会、「憲法九条を守るために地方議員が立ち上がろうと、党派を超えて147人が参加している」と九条の会・千葉地方

議員ネット、「『九条守れ』の大看板の前で花見などの行事を開催」と埼玉県さいたま市の三室九条の会、「県段階の会はないが、市・町の九条の会が横のつながりで活動を強めている」と茨城県の九条の会・水戸、「各地の九条の会のニュースを袋詰めにして80の団体に送っている」と「九条の会」群馬ネットワーク、「小冊子歌集『憲法を詠む』を普及し、好評。『短歌サロン九条』を開催」と憲法九条を守る歌人の会、「1カ所の集会でなく首都圏50大学での開催企画・学園ツアーにとりくむ」大学生のPeaceNight9、「核兵器廃絶署名のとりにくみとNPT（核不拡散条約）再検討会議への代表派遣への協力」を訴えた東京高校生九条の会連絡会と続けました。

11の分散会、2分科会で

最後に東京から九条の会東京連絡会事務局の島田修一さんが「ニュース」やホームページを活用しながら活動交流や学習会を重ねて活動し、秋の「東京・九条まつり」へのとりくみをすすめているなど報告しました。

（発言大要は次頁に掲載）

このあと、九条の会の小森陽一事務局長が、九条の会のあゆみと世論や政治情勢の関わりを示しながら、「九条を守るだけではなく、生かす活動をそれぞれの地域でどう具体的にしていくか、じっくり、しっかり、熱く議論してください」と呼びかけられ、全体会は終わりました。

午後は、11の分散会と職場と青年の2分科会に分かれて、
（8頁へつづく）



1時から4時まで交流しました。分散会・分科会では、東京各地の九条の会の会員が司会・記録などのスタッフとして尽力するとともに、積極的に発言され、関東ブロック交流集会は、東京での新たな運動へのスタートとなりました。

関東ブロック交流集会での 島田修一さんの報告



4月4日に開催された九条の会関東ブロック交流集会（7ページ関連記事参照）の全体会で東京からの報告を島田修一さんがおこないました。その発言要旨は次のとおりです。

第2回全国交流集会（07年11月）で「すべての小学校区に会をつくらう」、そのために「ネットワークをつくり、交流・協力しあって運動を前進させよう」の「訴え」が出された。この訴えに答えて、首都東京において草の根からの強大な改憲反

対の基盤を作り上げていくことをめざして、08年10月24日、700人が集まって東京連絡会を発足。

これまでの主な活動として、テーマを設定して交流会をおこなってきた。「ニュース発行のノウハウ」「若い世代に広げる」「地域に広げる」など、草の根運動の進め方について交流してきた。

また、学習活動を重視し、これまで「ソマリア沖で自衛隊は何をしているか」核兵器と9条「衆議院比例定数削減とは何か」「坂の上の雲とメディア」の学習会。「拉致問題解決の道・東アジアと9条の新しい意義」など講演会。9条を核としながらも憲法を正面に据えた意見交換を積み重ねてきた。

そして「ニュース」とHPを通じた活動交流。ニュースは隔月発行。題名を日野原重明さんが命名・揮毫した『生きいき憲法』。著名賛同人の巻頭言。交流会・学習会の活動紹介、都内各地の会の活動の紹介など。

こうしたとりくみを通じて、「会」と「会」の横のつながりが強まり、9条への熱い思い入れをもった人々が地域・職場・学園を超えて結びつくようになった。

（ここで、いくつかの地域の「会」や、「若い世代」の活動の紹介をしたあと、）

私たち中高年世代には「9条の会」という「たまり場」があるが、若者は「孤立」していて、それが無い。たまり場である9条の会に若者を迎え、応援して

いこう。

続いて、ことしの決意として、
（1）「9条運動の新しい飛躍」へ向け、11月13日に「東京・9条まつり」を開く。3000人規模。合唱・映画・講演・討論・交流など各「会」が、それぞれが企画を持ち込み合う。コンセプトは、①個々の9条の会が主人公の企画運営、②人権・貧困・民主主義などの今日的課題が9条を軸につながるイベントにする。

（2）地域の「会」結成をひろげる。都内小学校は1300。学区は乱れて分かりにくい。従ってストレートに「小学校区」で取り組むことはできないが、発足時800余の「会」は現在900を超えた。1000の舞台を目指したい。

最後に、98歳日野原氏から「国民が意思表示するには九条の会というのはいい。東京連絡会はずか発足1年だが、グーッとアクセル踏んでスピード出して進んで欲しい」との強い期待が寄せられた。9条を守ることは今を生きる者の責任。平和だけでなく、貧困と格差を解消し、教育の機会均等を実現させる力は「平和を愛する私たちの運動」にある。ニュースの題字「生き生き憲法」を東京連絡会の「合言葉」として力を発揮していきたい。

ご協力有難うございました。

東京高校生平和ゼミナールのNPT会議への高校生代表派遣カンパは、全体会会場出口で行われましたが、12万2553円が寄せられました。

